

「将来像を実現するために必要な方策」等検討資料

※赤字下線:第4回の議論を踏まえて加筆・修正した箇所

区分	検討の視点(審議会での主な意見)	答申の内容(案)
実現すべき将来像 《第3回で重点的に議論》	<ul style="list-style-type: none"> ○遊ぶ、働く、生きるというような生活の場面をイメージすることが重要 ○様々な世代の人が体験・学習を通じて、心のバリアフリーを解放していくことを繰り返すことでユニバーサルな社会を実現する ○障害があってもなくてもそれぞれに課題があるため、大きな括りで当事者を捉えることが必要 ○日本語が不自由な人でも日本人と同じような形で生活できるまち ○社会状況の変化がある中で、それに合わせて柔軟に対応することが重要 ○共存共生の考え方が身に付き、配慮ができるようになることで前に進む力がつく ○区民だけでなく、働きに来る人、訪れる人など全て人を対象として捉えることが必要 ○病気になっても、在宅療養になっても、住みやすいまち ○人と人が接することで、コミュニケーションの輪を広げ、様々な方が笑顔で歩けるまち ○ユニバーサルデザインの視点を持っている区民が育つまち ○様々な立場の人が、知恵を出し合い、課題を解決していくまち ○社会参加しやすい(外にしやすい)、安全・安心なまち ○思いやりのあり、人にやさしく、快適な住みやすいまち ○自分のやりたいことが、やりたいときに、自分でできる社会 ○<u>選ばれるまち、住んでいることを誇れるまち</u> ○<u>支え・支えあうまち</u> ○<u>学び合えるまち</u> ○<u>多様性を認めるまち</u> ○<u>一人一人の個性が認められ、尊重されるまち</u> ○<u>共生社会、多文化共生</u> ○<u>「誰もが」に含まれている者が明確になるよう、列記することが必要</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが、自らの意思により、自立し、<u>それぞれの能力・意欲に応じ</u>、社会参加が活発に行われている<u>共生社会</u> ○中野区に住んでいる人、通学する人、通勤する人、訪れる人など、中野区に関わる全ての人にとって、安全・安心で快適に過ごせるまち ○様々な世代・<u>立場の人が相互の理解を深め</u>、コミュニケーションが活発で、自発的な取組が進んでいるまち ○社会状況の変化<u>や技術の進展等を踏まえ、柔軟な対応が進むまち</u> ○<u>一人一人の個性、違いが理解・尊重され、誰もが学びあい、支えあうまち</u> ○<u>誰もが、住みたい、住み続けたいと思える魅力の溢れるまち</u>
基本方針 《第4回で重点的に議論》	<ul style="list-style-type: none"> ○罰則を設けるのではなく、啓蒙活動等を行い、取組を行ったところを褒めることが適切 ○ハード面の取組も重要であるが、区民の方の心の開放等(心のバリアフリー)が重要 ○高齢者の健康寿命をなるべく伸ばしていくという意識が必要 ○多くの人の社会参加、活動を促進し、それにより本当に必要な方(重度者)に集中させる考え方が重要 ○小さい頃からのユニバーサルデザイン教育が重要 ○生涯学習(社会教育)の観点、ボランティア活動の促進の考え方が重要 ○身近に触れる(体験する)ことが重要であり、様々な方との交流環境をつくる考え方が重要 ○コストをかけ、特別仕様をするのではなく、知恵を出し合い何とかしていくという考え方が重要 ○各年代を通じた教育・学習・体験が必要、意識改革が重要 ○ユニバーサルデザインの考え方を目に見える形で表現することが重要 ○商品、サービスを考える際に、ユニバーサルデザインの視点が入っていることが重要 ○ユニバーサルデザインの根底にはバリアフリーがあり、最低限のハード面は整備していくべきである ○女性に対する暴力という観点が重要 ○<u>当事者側の意識変革も含め、多方向からの努力が必要</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ①<u>ユニバーサルデザインの視点が活かされたまちづくりの推進</u> ②<u>ユニバーサルデザインを理解・実践するための教育(学校教育、社会教育)の推進</u> ③<u>多様な人のコミュニケーションの促進</u> ④<u>ユニバーサルデザインの視点が活かされた商品・サービスづくりの推進</u> ⑤<u>多様な主体による協働・連携体制の構築</u> ⑥<u>ユニバーサルデザインが段階的に進んでいくための仕組みの構築</u>

<p>各主体の役割</p> <p>《第4回で重点的に議論》</p>	<p>(区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政と民間が一緒になってまちづくりを進めていく観点が重要 ○社会状況変化のある中において、方向性を示す旗振り役 ○障害者差別解消法では、合理的配慮の提供等について義務が課せられている ○行政、区民、事業者を結びつけるコーディネート役が必要 <p>(区民)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に埋もれている人をひろい上げて各機関に繋げる ○関係機関と一緒に支援を行う、支えあう <p>(事業者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サービス提供にどこまでコストをかけるか悩ましい ○コスト面を考えるとすぐにできないことはあるが、努力目標であっても、設定することで近づいていく ○障害者差別解消法では、合理的配慮の提供について努力義務が課せられているため、役割を明確にすることが重要 ○チャリティではなく「事業」として、取組を進めていくことが必要 	<p>(区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会状況の変化を踏まえ、ビジョンを示す ○区民、事業者と協働して取組を進める ○他主体に率先した、自らの取組(インフラ整備、サービス提供等)の実施 ○行政、区民、事業者を結びつけるコーディネート役 ○ユニバーサルデザインに対する理解促進 <p>(区民)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区、事業者と協働して取組を進める ○地域での支えあい活動、各機関への情報提供 ○ユニバーサルデザインに対する理解促進 <p>(事業者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区、区民と協働して取組を進める ○自らの事業を通じた取組(新たなサービス創出・提供等)の実施 ○ユニバーサルデザインに対する理解促進
<p>将来像実現のための方策</p> <p>《第5回で重点的に議論》</p>	<p>○区民に分かりやすい取組(多機能トイレ整備等)を行うことも必要</p> <p>○中野駅周辺等のまちづくりの工事期間に、ユニバーサルデザインを担保するという視点も重要</p> <p>○東京都の基準より、広く使える施設が必要</p> <p>○娯楽、楽しむための手段等を広げることが必要</p> <p>○まちの多言語化(サイン等の整備)が必要</p> <p>○分かりやすい文章、漢字にルビをふることが必要</p> <p>○認知症サポーター養成講座のような講習型の啓蒙活動事業</p> <p>○年代に応じた教育・学習・体験、あるいは啓蒙活動が必要</p> <p>○不自由に思っていることを相談できる窓口、意見を集約して継続して検討していくための体制の整備</p> <p>○多様な年代がコミュニケーションを取れる場(サロン・ワールドカフェなど)の整備</p> <p>○ハード整備の前段階で審査し、バリアフルな建物を作っても良いか考えることが必要</p> <p>○区、区民が協働した教材作成のワークショップ</p> <p>○当事者の疑似体験</p> <p>○アイデアコンテスト・学習発表会</p> <p>○継続的に進めていくためのスパイラルアップの仕組み・体制整備</p> <p>○当事者側から苦情を申し立てる制度、苦情処理委員会の設置</p> <p>○事業者への教育・理解促進</p> <p>○当事者向けの意識変革のセミナー</p>	<p>※方策ごとに対応する基本方針の番号を記載</p> <p>(ハート:理解促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校でのユニバーサルデザイン教育(学習・体験・アイデアコンテスト・学習発表会等)【②】 ○地域でのユニバーサルデザイン教育【②、③、⑤】 ○リーフレット等による普及啓発【②】 ○教材作成のためのワークショップ【②、③、⑤】 ○講習型の啓蒙活動事業【②、③】 ○事業者への教育・理解推進【②、④】 ○当事者向けの意識変革セミナー【②、③、⑤】 <p>(ハード:インフラ整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりにあわせてユニバーサルデザインの整備【①】 ○ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備【①】 ○多機能トイレの整備【①】 ○施設建設の前段階の審査【①、⑤】 ○まちの多言語化・サインの整備【①】 <p>(ソフト:サービス提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○娯楽・楽しむための手段の拡充【④】 ○分かりやすい書類・資料の作成【④】 ○相談体制の拡充【④、⑥】 ○多様な年代がコミュニケーションを取れる機会の創出【②、⑤】 <p>(推進体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○継続的に進めていくためのスパイラルアップの仕組み・体制整備【⑥】 ○当事者の意見を拾い上げる窓口【⑥】